

## ◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：ビオ・荒川さいたま

23A-14

代表者：代表 福島一之

URL : <https://arakawasaitama.com>

### 1. 活動が必要とされた状況

特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」は、2020年に天然記念物指定100周年を迎えました。しかしながら、サクラソウの株数は2010年から毎年減り続け、ついに2020年には47.1万株と、1965年調査開始以来の最低を記録してしまいました。

原因は種々有り、サクラソウ自生地4.12haの中だけで解決できる問題ではありません。荒川上流河川事務所や桜草公園の協力が無ければサクラソウ自生地が「さらなる100年に向かって」あり続けるのはとうてい不可能です。

この現状を変えるには、多くの人にこのピンチを知ってもらい、サクラソウを好きになってもらって、ピンチをチャンスに変えるべく、この本を出版しました。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

当初は100周年のサクラソウの花の活動時期に来場者の感想、意見などをお聞きしたり、仲間からの話を集めたりして、広く情報を募るつもりでしたが、コロナ騒ぎで全て中止。会議も、会うこともできませんでした。

そのため、この10数年書き溜めてきた「田島ヶ原サクラソウ自生地の二十四節気」を、要約した文章をメインに据え、サクラソウについての解説や、マンスリーレポート27などの記事を加工してまとめました。

### 3. 活動の成果

関東図書(株)をはじめ、皆様のご協力でA5版128ページの本を250冊作成できました。さいたま市の図書館25館に寄贈し、公民館、小学校などにも順次寄贈予定です。埼玉県立熊谷図書館からも寄贈の要請があり、贈りました。

ただし、ただお届けしただけでは、その後どうなるかは明らかですので、何とか継続的にサクラソウ自生地に興味を持っていただき、さらなる100年に協力してもらえような方法を模索しながら進めています。

本の発行やその趣旨については、9月26日の東京新聞埼玉版、10月10日の埼玉新聞県央・県東版で報道していただき、読者からの反応を得ています。

### 4. 今後に残された課題

今回の出版により、問題点と進むべき方向性は明示できました。

これからは实际的にどう取り組んでいくのか、本の配布と併せてサクラソウ自生地の環境を少しでも改善していかねばなりません。

今回の新聞報道によるさいたま市民からの直接的な反応は残念ながらゼロでした。配布作業を通して仲間を増やし、行動計画を作成して周囲に働きかけていきたいと思えます。

本の発行を記念して従妹夫婦から会への寄付をいただきました。有効に使えるよう頑張りたいと思えます。

